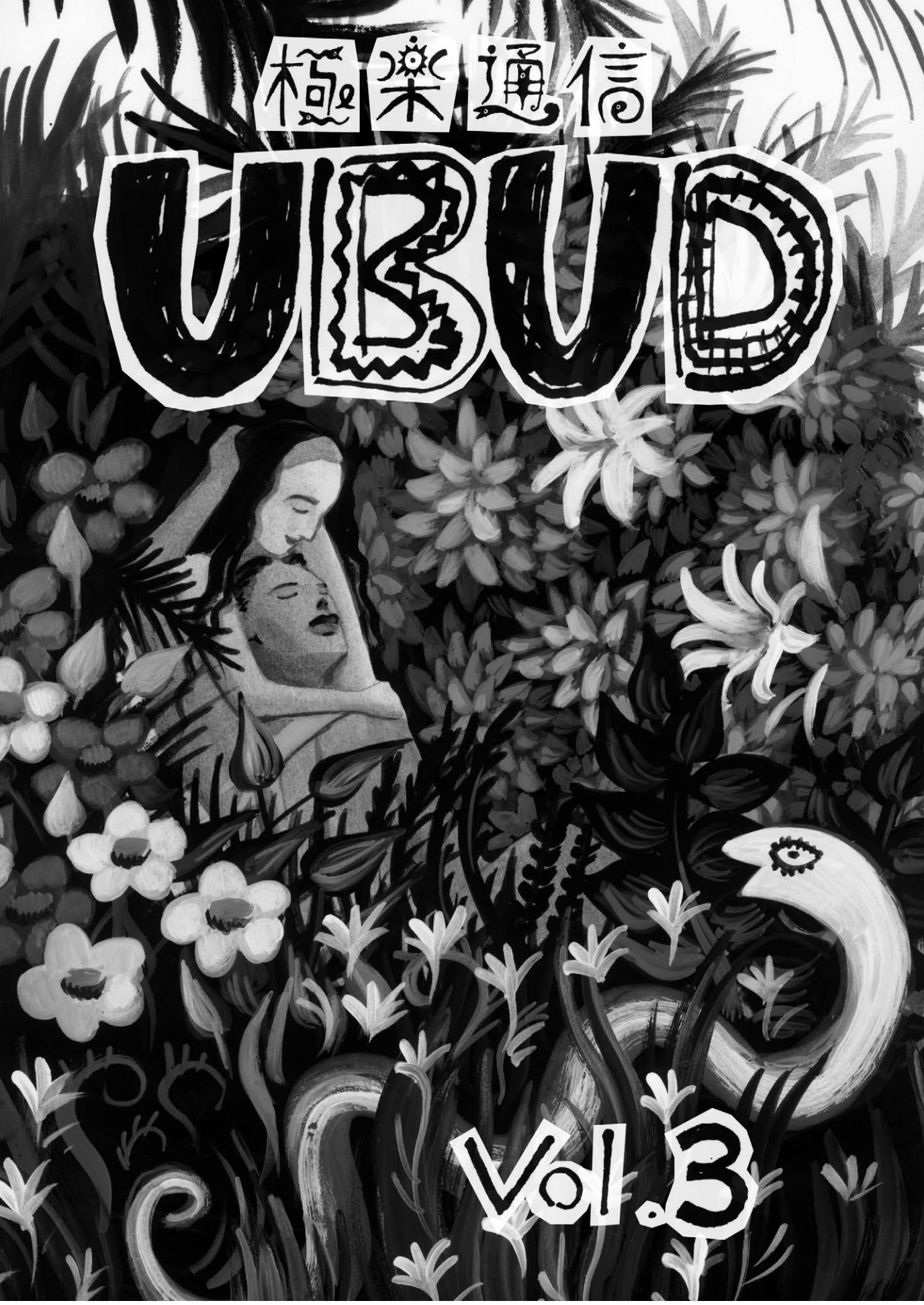


極樂通信

# URUD



Vol.3

# UBUD

U・B・U・D ◆ I・N・D・A・H



photo: Y. Hori

UBUD の市場は早朝から昼頃まで賑わう。狭い場所にすごい人数の人があふれる。売ってるものも色とりどり、種類さまざま、なんでもありである。色と匂いが猛烈な勢いとパターンでミックスされ、さらに人々の喧騒がトッピングされ、犬とオートバイとベモが周りをデコレーションする。ここは生粋のアジアであるとともに、自分もアジア人であることを再認識させられる場所である。なぜならば、私はここが大変好きなのである。

堀 祐一

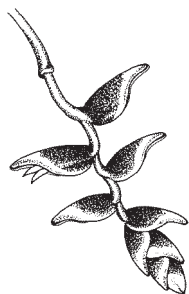
ဦးဦးဦး

Vol. 3 1994 Juni

# Contents

|                              |    |
|------------------------------|----|
| ● Kabar Baru Berita Lama     |    |
| 懐かしのセゴール                     | 4  |
| MECARU                       | 5  |
| ● Culture Shock              |    |
| 停電                           | 6  |
| ● Belajar Tari&Gamelan -3-   |    |
| 私と踊り                         | 7  |
| ● Momotarou                  |    |
| ももたろうバリ日記 [3]                | 8  |
| ● Dari Jepang                |    |
| どたばたコンビ珍道中                   | 10 |
| ● Pelajaran Bintang          |    |
| バリ島・星空散歩道 [1]                | 12 |
| ● Laporan Koresponden Khusus |    |
| ダッチワイフ                       | 15 |
| ● UBUD よろず百科                 |    |
| PURA                         | 16 |
| ● C・O・L・U・M・N                |    |
| UBUD の日本人                    | 18 |
| ● Enak・Enak・Ubud おいしいものに目がない |    |
| 日本で ENAK ENAK!               | 20 |

|                             |    |
|-----------------------------|----|
| ● C・O・L・U・M・N               |    |
| ウブドは旅人を変える!?                | 22 |
| 価格の四重構造                     | 23 |
| ● Tulisan Bersambung 連続エッセイ |    |
| タジェン (闘鶏) の魅力               | 24 |
| ● Buku Buku                 |    |
| ガムラン武者修行                    | 25 |
| ● Toko BEST 店               |    |
| toko                        | 26 |
| ● Warung 味な店                |    |
| monky cafe                  | 26 |
| ● Pondok Manis 私の常宿         |    |
| Sehati Guest House          | 27 |
| ● Pesan & Kesan 旅人一声        | 27 |
| ● その他のニュース                  | 28 |
| ● ウブッな人々                    | 29 |
| ● Studio スタジオ               | 30 |
| ● Pengumuman 伝言板            | 30 |



## 表紙からのメッセージ

model は、WAYAN KAZUE と影武者の Coplin です。BALI・UBUD といえば、やっぱりこれしかないでしょ...  
皆さんも、思い当たることがあるのでは？

伊藤 ちづる

## 編集室便り

### ○入稿に関するお願い

編集部では、Macintosh による DTP 作業で版下を作成しています。原稿をお寄せくださる方で Text Data で入稿可能な方は、以下の方法でお願いします。

- ・ Macintosh フォーマットの FD (Text Data)
- ・ MS-Dos フォーマットの FD (Text Data)
- ・ Nifty-Serve の Mail

(宛先 ID/ MHC03203: 菅原 or GCB01162: 堀)

詳細は、裏表紙にある日本連絡先事務所までお問い合わせください。

### ○お詫び

ギャラリー探索のコーナーは、印刷上の都合により、ボツ企画となりました。(ゴメンナサイ)

## 懐かしのセゴール

草野拓三 (音楽人)

セゴールは永久に不滅です!!

雨上がりの夕方、マンディーのあとちょっとお腹が泣きべそを掻きだした。午後6時。今は雨期の真最中であり、ほとんど一日一回は雨がザーと降る。いつものように筒型になったサロンを巻いてセゴールへと向かう。道中一歩々々滑らないように、泥がはねないようにとソッーと歩いていく。ウブドゥーに滞在している間僕はこうにして夕食を頬張りにセゴール通いをしていた。

サテもイカンもサユールもなんでもある中でお気に入りの一品はと聞かれれば、そりゃもう断然ウロタン（バリのソーセージ）である。見掛けはちょっとグロテスクだが、肉の刻み具合といい、塩加減といい最高である。中でもキラキラおめめの滴のような涙がとってもよく似合いそうな判宙太にそっくりなお姉さんがやっていたワルンのウロタンは、ウルウルもんのおいしさだった（おっとヨダレがたれてしも一た。）

今年の3月、3年半ぶりにウブドゥーに行った。セゴールはなく新しいパサールを建設中であった。「よくバリの友達に御飯をおごってもらったなァ。」ふと、色々なおもいと思いが胸をかすめた。

バリ島、そしてバリの人々から酸いも甘いしょっぱいも、たくさんたくさん教えてもらった（というよりも鍛えられた）。毎日クンダンや踊りのケイコでくたくたになった心と体を癒してくれる場所、たくさんの友達ができそして親交を深めた場所、そしてセゴールという所は生活していく上で最も大切であり、その土地を感じさせてくれ、そして生き々と人間が脈うっている場所である。ウブドゥーのセゴールもそういう場所であった。

（あつ、雨がふってきた。）

おとととと、ここは東京でした。変わらないもの、変わりゆくもの、色々あるけれど、僕にとって泥だらけになりながら毎晩セゴールに通っていたあの風景や匂いは、心の中でたくさんの場面に直結し、そして今も続いている、確実に…。



photo: E. Sugawara





## MECARU

UBUD の王宮 = プリ・サレンの前で、日本人  
ツーリストで、女子大生風のグループに電撃インタ  
ビューをしてみました。

インタビュアー「もし、生まれてきた子供が双生  
児だったらどうしますか？」

ツーリスト A 子「え〜、そんなことってあるの？  
ソーセージが生まれるなんて怖い」

インタビュアー「あの〜、そうせいじと言っても、  
そのソーセージではなくて、双子・ツインズのこ  
とですが」

ツーリスト B 子「やだあ〜、彼もいないのに子供  
が出きるわけないでしょう」

ツーリスト C 子「結婚もしてないのに、子供がで  
きたらリンダ困っちゃう」

ツーリスト D 子「私もバリニーズと結婚して、  
UBUD の花嫁になろうかしら」

う〜ん、質問する相手を間違えたかもしれないぞ。  
どうみてもこのグループは結婚に縁のない顔をして  
いる。と言うことは、子供にも縁がないということ  
だ。まあまあ、そういう勝手な意見は後にして、イン  
タビューに答えてください。

ツーリスト A 子「三人以上だとちょっと子育てが  
大変だと思うけど、二人なら、一人も二人も一緒か  
なという感じ」

ツーリスト B 子「男の子と女の子なら、もう子供  
を作らなくてもいいし、一度に子育てから解放され  
るから、嬉しいかしんない」

ツーリスト C 子「女の子の双子なら、ザ・ピーナッ  
ツやこまどり姉妹（幻の芸名）のように、芸能人に  
しちゃおうかな…なんて考えちゃうし。」

ツーリスト D 子「男の子の双子だったらどうしよ  
う。若の花と貴の花のように、相撲取りにしようか  
しら」

おいおい、若の花と貴の花は双子じゃないぞ。

それぞれに、なかなか見識のある意見を聞くこと  
ができ、大変有難うございました。こんな答えが返っ  
てきましたが、これが一般的な日本女性の考え方な  
のでしょうか？

ところで、ところ変われば習慣も違うもので、韓

国では女子の双子はあまり喜ばれないと聞きます。  
バリ・ヒンドゥーでも、双子の出産を喜んでばかり  
はいられないようです。スードラ階級では、男の  
子と女の子の双子は動物的で邪悪なものとされ、か  
つては、双子を出産した家族、一族ろうとうは、人  
里離れた山中で生活しなくてはならなかったそうで  
す。バンジャールの集会場に晒され、引き取ってく  
れる村が現われるのを待ったこともあったそうで  
す。時には赤子を捨てたというタブーの話も聞きます。  
そして、大変大掛かりな厄払いの儀礼をしたよう  
です。その儀礼のことを、バリ語で MUCARU（ム  
チャル）といっています。現在では、双子の出産は  
ムチャルをするのみとなっているようです。しかし、  
ムチャルは村（Desa Adat）中の人々が参加しな  
くてもはいけません。そして現在でも、やはり大きな  
儀礼を行います。またお金も大変かかるようです。

トリワンサ階級（ブラフマ、クシャトリア、ウェ  
シア）では、逆に双子は喜ばしいこととされ、何の  
問題もなく通常の出産の儀礼が行なわれます。男女  
の双子の場合、女子が里子に出されその後結婚する  
ということもあったようです。これは、家系存続に  
良いと考えたからでしょう。同じバリ・ヒンドゥー  
で、この大きな違いはいったいどういうことなのか  
…、大きな疑問を投げかけたまま、文章は尻切れ「極  
楽」トンボで終わってしまいます。

※ MUCARU についての詳細は、吉田竹也著「バリ人の  
宗教について」を参照してください。



photo: E. Sugawara

## 停 電

UBUDでのカルチャー・ショックに停電という電気ショックがある。日本でもかつては頻繁に停電はあったが、現在では皆無に等しい。スイッチを入れると電気がつくことがあたりまえとなっている現代人が、突然停電に遭遇した時、どんなにアクションをするだろう。すべて電化された製品の中に埋まって生活している現代人には、手足をもぎ取られたように、ただ茫然とするのみで何もすることができないだろう。せいぜい、電力会社に苦情の電話をかける程度ではないだろうか。大都会・ニューヨークの停電をテーマにした映画があった。数時間の停電が人々を大パニックに陥れることでしよう。そして、こんなアクションもあるようです。停電で何もすることがなくなった家族が、茶の間に集まり、一家団欒の楽しい時が過ごせることである。こんなジョークがある、「停電になったら何をする?」「そうだな、何もすることがないからテレビでも見て時間をつぶそうかな」なんて結局電気に頼る発言をしてしまう。

世代によって、この停電に対する受け止め方が、かなり違うようである。かつての日本も停電は日常茶飯事の時代もありました。今でこそ、停電という事態はめったに遭遇しません。年配の人は、苦しい生活の思い出がまつわっているようであるし、若い人には楽しい一家団欒の思い出もあるようである。

太平洋戦争末期の灯火管制を経験された人々は、敵機来襲という大きな恐怖とともに訪れた停電（止電）だったことでしょう。戦争を知らない子供達には、無縁のものです。

戦後生まれの団塊の世代の人々は、台風シーズンによく停電したことを記憶していると思います。そして、雷がなると決まって停電になりました。トランジスターラジオと懐中電灯、それにローソクは停電に備えての必需品でした。これも、不安を伴った停電でしたが、子供達に

としてはまるでキャンプのようで、はしゃいだ気持ちになる楽しい一時だったようです。

突然、電気が消える。何事が起こったかとロスメンの部屋を出ると、外は真暗闇。UBUD中が停電のようです。ロスメンの家族は、何事もないように慌てず騒がずランプに火を灯します。そして、各部屋にランプを配っていきます。ところどころにローソクの明かりが見えます。ランプの炎、ローソクの炎をポーッと見つめてしまいます。なんと、心休まる温かい色なのだろう。2、3時間が過ぎて、明かりがつかしました。どこからか拍手が聞こえます。電気がつくということがなんと素晴らしいことなのかと、改めて痛感します。必要以上の明るさはいりません。不夜城のような明るさはごめんだ。今のUBUDの暗さが大好きだ。空には、目映いばかりに天の川が輝いています。天の川から、たくさんの流れ星が散っていきます。そして地上では月明かりに照らされた、水をはったばかりのライステラスが田毎の月を浮かべて美しい。蛍が粉雪のように舞っています。なんて幻想的なことでしょう。夜道には、懐中電灯が必需品だが、そんなことはなんの苦労にも感じない。当たり前になった電気のある生活。電気って明るくって便利だし、スイッチを捻るとすぐにつく電化製品に囲まれて、まったく便利な世の中になったものである。しかし、今一度明かりのありがたさを考え、理解し、エネルギーの問題をもう少し考えてみましょう。そして、BALIが明るくなり過ぎてしまうと、神々の居場所がなくなり、そして、我々の居場所もなくなってしまいそうです。





## 私と踊り

大西 由希子

初めてパリを訪れたのは、一年前のことでした。知人にくっついてただ「なんとなく」やって来て、そして私は踊りに出会いました。

最初に見た踊りが何だったのかは思い出せません。それほど印象的なものでもなかったのだと思います。「なんだかへんてこな踊りだな」と物珍しそうに眺めていました。はじめのうちはそんな程度でした。

それがある日、スマラ・ラティの踊りを目にして、私は衝撃をうけてしまいました。「こ、これがバリ・ダンスなんだ」

心が震えました。踊るっていいなと思いました。踊れる人をうらやましく思いました。私も踊れたらな、と思いながら、でもまだためらっていました。

「私も踊りたい。」と本当に思ったのは、伊藤さんの練習を見に行った時でした。日本人の私は、はじめ「お稽古事」らしい練習風景を想像していたのですが、実際は全く違っていました。バリの人びとにとって「踊る」ということはとても自然な、ごく日

常的な行為のようでした。生活の中に踊りがあるのでした。私はボンヤリとその光景を眺めながら、「私も踊りたい」と心の底から思いました。もう見てるだけでは満足できなくなっていたのでした。既に帰国日はあと2日とせまっており、その時の私にはわずかな時間しか残されていませんでしたが、もうすっかりその気になっていた私は、「必ず、今度は踊りを習いに来るんだ。」と固く心に誓って日本に帰っていきました。

それからずっと、私と踊りの関係は続いています。できればこの先も末永く続けていけたらなと思っています。まだ踊り始めて1年も経ちませんが、そんな短い間にも、いろいろな発見や変化、小さな感動がありました。私は踊るようになってはじめて、自分の体というものを感ずることができるようになった気がします。それまでは運動嫌いで、机上でできるようなことしかしていなかった私に、踊りは多くのものをもたらしてくれました。だんだんと踊っていくうちに、いつの間にか欲も大きくふくらんでいき、その分つらくなる時もたまにあります。でも、それでもやっぱり踊る事は楽しいです。

もっと、もっと踊りたいと、私の欲望は果てしなく続いていきます。



妊娠5ヶ月  
(じつは24週6ヶ月)

11ヶ月35日  
二女がけこ  
退院を待つ  
(家は母が)

AWETON

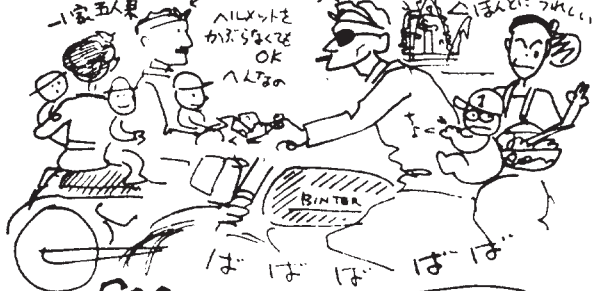
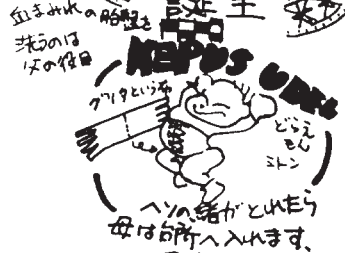


210日(6ヶ月)



せかく増えきた  
髪をつつ3つに削って  
出産時全ての織物は染めます。

母子ともに晴れてお寺に入れます。



UPAKARA人生

TUTUN AKAMBUH







# ももたろう、バリ日記 [2]

ジェロ・チャンドラワティ



出産・誕生というのは、聖なるものであると同時に戯れでもあるというのが、バリヒンドゥーの考え方ようです。生後3ヶ月までは、赤ンボは神の領域に住んでいて、この世にあるのは仮の姿。文字通り下にも置かぬ扱いを受けます。一方母はことあるごとに KOTOR (戯れ) と連発され、食べ物や行動に様々な制約があります。あんなに苦勞したのになんかワリにあわないなー、とか現代日本人は思いがちですが、日本も昔はいろいろあったとか。この KOTOR も、そうこうするうちに各儀式を経て少しづつ禁忌がとれてゆきます。(地方や階級によって差異があります。)

これらの UPACARA には当然 BANTAN をつくります。この間にガルンガンだニユピだ親戚の結婚式だ葬式だ……と。

## ●お詫び●

Vol.2 で予告した、山辺杏さんの "HIDUP BARU" は、作者の都合により、今号での掲載が間に合いませんでした。Vol.4 からは、ちゃんと連載しますので、楽しみにしていた皆さん、もうちょっとお待ち下さい。この場を借りてお詫びいたします。

UPACARA と  
同じ  
嘆息が出るように  
ないば。  
おなにもリッパな  
バリの母...

# DARI JEPANG

## どたばたコンビ珍道中

”極楽通信UBUD”愛  
読者の皆様こんにちわ!

の度、時間にルーズで食と遊びにはかなり強欲な WAYAN KAZUE & WAYAN MASAKO のふたりがUBUDを拠点に気の向くままBALI島一周旅行に挑んだ珍紀行をお届けいたします。

ここ何年かの私たちは、一年に一度それも年末年始は決まってBALIに  
っている。それは、慌ただしく過ぎていく日本の生活から脱却し、命  
の洗濯に行く!と言うと「あんたたちふたりは、日本でも充分洗濯し  
てるよ!」と仰る方がいるとは思うが、  
それはそれ、これはこれなのである。

去年BALIから戻り、また今年のお正月もぜったいに  
UBUDで迎えよう!と固く決意した私たちの目論見は2つあつた。それは、年末にのみ開催されるUBUD村青年団主催の  
DISCO&BAR にかかなり積極的に参加することと、着いてすぐ  
にBALI島一周旅行に挑む!ことだった。

名古屋空港を飛び立ち「私は自分の体全部が乾燥している  
と感じた。私はワインをむやみに体に流し込んだ」と言えば山田詠美的でカッコイイのだが、そうは  
いくはずがない。

私たちは、機内食をドシドシ食いコンチネンタル航空を選んだことをいいことに機体中央部のBAR  
でワインを散々飲みちらかした。

そうして酔っ払いふたりのドンチャン騒ぎ大宴会に、スチワードさんや偶然乗り合わせた不特定  
多数の人々を巻き込んだ約11時間の空の旅。よって、ングラ・ライ空港に着いた時はすでに二日酔  
い状態であったことは言うまでもない。

ともあれ、私たち酔っぱらい娘はWAYAN KARTA氏のお出迎いでUBUDへ向かった。

去年来た時よりも、街灯が少し増え明るくなったバイパスを抜け、明かりがちらほらとしか無くなつて  
数分後、影武者に着いた。

飛行機の中で育んだとも言える強烈な高揚感を、伊藤&由美にぶつけ抱擁、歓談し、本日の持て  
るパワーを、残らず消耗した感じになった。そこで、BALI島一周旅行の出発を明日の早朝に予定  
していた私たちは、あらかじめ借りてきてもらった車(黄色のジムニーのオープンカーの予定が、な  
ぜか紺色のノーマルジムニー)を確認して、その晩は影武者で安らかに眠ったのである。――思えば、  
ここまでは完璧だったのだが・・・。

翌日の早朝、ブリオカちゃんの「bangun bangun」のモーニングコールで目覚めた私たちは、やっ  
ぱUBUDの朝はパサールでおばちゃんたちが売っているナシサユールを食べないと始まらない!とばかり、早速パサールへ。

しみじみと、UBUDの朝の充実食ナシサユールを味わった後、すぐに昼寝をしてしまったのは少々  
計算ミスであった。でも考えてみれば、私たちふたりが時間通りに出発できるはずがない。再び目覚



めた時には、すでに昼を少しまわっていた。

それでも一向に気にせず、近くのバンガロー (Agung Raka) へマンディをしに行った。そして、スタッフの皆とひとしきりおしゃべりをして、パパイヤジュースまでご馳走になって影武者に戻った。すると、由美さんが心配そうに「はよ行かんと日が暮れるよ」とひと言。その言葉で” 由美さんが起きる時間=夕方” なんだと気づいた私たちは、やっと出発することにしたのである。

かくして、かなり前置きが長くなりましたが、予定を5～6時間経過した午後4時に出発するという、何とも私たちらしい旅立ちとなった。

一路!パダンバイを目指してハンドルを取った私たちの前に、最初に立ちはだかったのはギヤニヤールのイカンラウだった。それは、私たちが選ぶBALIフードゴールデン5のひとつである。ちなみに他の4品は?というと、もちろんBALIの代表的な美味を総動員させたナシチャンプル、バクソ〜(特に玉子入り)、サテ(アヤムをはじめ全て)、バビグリンであるが、うう〜ん!ピサンゴレンも美味しいし、ナシゴレン、ミ〜ゴレンも大好きだし、テンベもタフもこれまた大好きなのである。と言っているときりがないのでここまでにして。とにかく、ギヤニヤールのセゴールでイカンラウを食べて、パダンバイへ向かったのである。

お腹もいっぱいになり、快適な夕暮れのドライブを楽しむ私たちに、次に襲いかかったのは「Mau Pergi ku kamar kecil」だった。<お食事中の方はごめんなさい!>

私はオシッコ、Masakoはウンコである。でその辺の草むらで処理しようと車を止め、各自目的別【大】・【小】に最適と思われる場所へ走った。私は【小】だったので、比較的簡単に済ませ、すっきりして車に戻った。しかし、【大】をまよおしたMasakoは、とっても目のいいバリ人の人影に細心の注意を配りながら、かなり奥の木が覆い茂っている所へと走って行った。

しばらくして、慌てて戻って来たMasakoは私に向かって「Kazue 服にウンコつけちゃった〜!」というのだ。

初めに、排出した【大】を木の葉の中にスッポリと隠す予定で奥の方へ入って行ったまでは良かったが、どうも2〜3日出てなかった【大】がムリムリムリッと一気に出てしまったらしく、“ 返り血”ならぬ“ 返りウンコ”を浴びてしまったらしい。「何とかしなくては!」と私は思った。このまま【大】付きMasakoが車に乗れば【大】がシートに付き、この先その汚臭とともに旅することにもなりかねない。

そこで、なぜか持っていたアクアで急場を凌ぎ、間近に迫る日没に少々焦りを感じながら、今度こそはホントにパダンバイを目指して走ったのである・・・つづく?



#### 教訓

みなさんも、こんなアクシデントが起こらないとは限りませんね。

「お出かけの際は、アクアをお忘れなく!」





## 1994 年 7 月 21 日 木星に彗星が衝突！その時、何が…？

バリ天文教育センター主任講師：青木 満

今回から連載でバリの星空案内をする予定でありましたが、来る 7 月に、天文学の歴史が始まって以来の一大事件が起こることが判明したため、第 1 回目の今回は、この事件のあらましを解説し、"バリの星空散歩" は、のっけからお休みとし、次回以降『極楽通信 UBUD』発行時の宵空の観望スポットのおいしいところをつまみ喰的に案内するとともに、最新のトピックスもまじえて解説していく予定です。乞う、ご期待を！

さて今回の事件のあらましですが、まずは当事者を紹介しておこう。まずは被害者だが、我々地球の兄弟星・惑星の中で最大の「木星」。その名前くらいは、日頃星々となじみの薄い方でも聞いたことくらいあるだろうし、いく分上下につぶれたような形で、まるで中年太りの星が、出張ったおなかに 2 本の太いベルトをしたような姿は、理科の教科書などでもご覧のことと思う。実際小型の天体望遠鏡でも、このユニークなおなじみの姿を初心者でも容易に眺めることができる。

この木星、地球と同じく太陽をまわる兄弟星・惑星といっても、何から何まであまりに地球とは似ても似つかない兄弟星である。まずその大きさは、ざっと地球の 11 倍（直径 143,000Km）。逆の言い方をすれば、太陽の 10 分の 1 となる。何より風変わりなことは、地球のように表面が堅い地面を持たず、木

星全体がとてつもなく大きなガスのかたまりでできているということである。これまた、太陽のミニチュア版といえる。事実、木星があと 10 倍ほど体重が重かったら、自らの力で光り輝くことができ、太陽系第 2 の太陽となることができたのである。（そうなれば、我々地球上には一切の生命が発生することはなかったであろうが…。）言ってみれば、木星は太陽になり損ねてしまった星で、地球のような惑星（地球型惑星といい、水星・金星・火星・冥王星が含まれる）とはまったく異質な星なのである。

一方、加害者としてはというと、その名を「シューメーカ・レビー第 9 彗星」という、長ったらしい名前の彗星。彗星といえば、皆さんはすぐにハレー彗星を思い出されることだろうが、あの長く尾をひいた"ほうき星"スタイルの雄姿を想像されては困る。そもそも彗星とは、中心部の核と呼ばれる岩の塊を



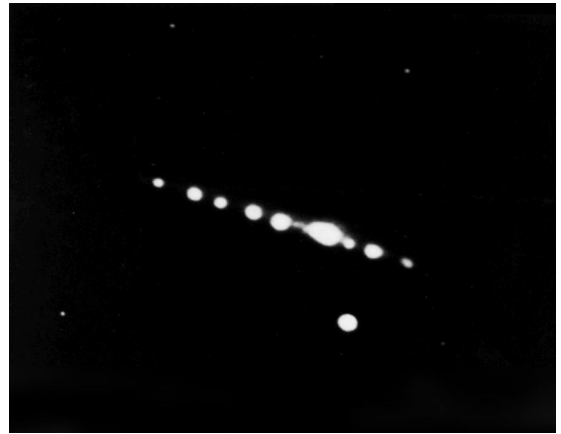


汚れた氷がその表面を覆っているもので、"汚れた雪だるま"との別名で呼ばれている。この汚れた雪だるまが太陽に近づくことによって、太陽からの熱で表面のダストを含んだ氷が溶かされガスになり、太陽からの太陽風と呼ばれる荷電粒子の流れと光圧によって、常に太陽とは反対側に尾をなびかせることになる。ただし、木星くらいに太陽から離れていると、彗星の尾は、ほとんど成長していない。さらに、このシューメーカ・レビー第9彗星は、昨年3月の発見時に、既にバラバラの状態に分裂されており、過去においてその表面を覆っていたものと思われる氷の類は、ほとんど宇宙空間に飛び散ってしまい、今は小惑星のような岩の塊状のものが、暗黒の宇宙空間を漂っていることになる。

この彗星が、木星衝突の1年以上も前に分裂してしまった理由は、その軌道を過去に遡って計算したところ、発見される以前に、木星に近づき過ぎ、ロッシュ限界（この場合、木星半径の2.44倍）以内に入り込んだために、木星のケタはずれの潮汐力によってバラバラにされ、砕かれた彗星の核が、木星の重力の影響下で、行儀よく一列縦隊に並んで同一軌道上を運動していることが判明した。写真分析で、大きな塊だけでも十数個が認められており、その岩塊の大きさは、（不規則な形に分解してしまっているため、表現としては正しくないが）直径1Km前後のものから、数Km程のものまでと推定される。

そして、次回、この彗星が木星に最接近する時、半径71,500Kmの木星に対し、木星の中心から33,700Kmまで近づくことが計算で求められている。つまり、完全に木星面に衝突するのである。その衝突の時刻は、1994年7月21日午前5時55分（パリ時間）。ただし、この時刻はバラバラに分裂している彗星群の中心部での値のため、彗星群すべての衝突を考えると、前後3日間程は"警戒態勢"が必要であろう。

その時分、木星はおとめ座と天秤座の境界線付近をうろちょろ運動しているため、午前0時頃には沈んでしまう。また、彗星の木星への衝突も、地球から見て木星の裏側で起こるために、全地球的規模で考えても、衝突の瞬間は残念ながら我々地球人から



指名手配：シューメイカ・レビー第9彗星

見ることはできない。

ただし、木星の自転周期は極めて速く、およそ9時間55分程で一周りしてしまう。そのため、たとえ木星の裏側での出来事とは言っても、4～5時間後には、衝突地点が地球から見た木星面の中央子午線上に達するため、欧米地域では彗星衝突後の生々しい木星の模様を観測できることになる。残念ながら、日本やパリではもう一晩待たないとその後の木星の様子がわからないことである。

ここで、筆者には例のごとく影の声が聞こえてくる。「直径が14万Km以上もある木星にたかだか数Kmの岩の塊がぶつかったところで、そんなの屁にもならねえ！だいたい、よその星に何が起ころうと地球にいるおいらには関係ね～や！」と。

しかし、そんな呑気なことは言うてはいられないのである。いつ地球が同じ目に合うかもしれないのだから。そもそも惑星やその衛星の誕生過程においては、味の素ならぬ"星の素"となる原始微惑星と呼ばれる宇宙に漂う無数の岩塊などが、ある時は衝突して砕け散り、またある時には、衝突後ひとつに合体したりといったことの繰り返しで、現在見られるような姿へと成長してきたのである。望遠鏡で見た月面は、一面のクレーターだらけのあばた面であるが、これも過去に無数の隕石や微惑星の衝突の仕業である。我地球にも、その誕生から地質時代以前までの間には、数限りない隕石や微惑星やらが飛び



込んで来てはいるのだが、地球の地質活動と侵食によってほとんどの衝撃クレーターの痕跡は、跡形もなく消し去られてしまっているだけである。

では、このような直径数 Km の彗星なり小惑星(隕石の原材料)が木星と衝突したなら、いったい何が起るのか? 結論から言って、「わからない」としか言いようがない。なにしろ、人類の歴史が始まって以来この方、こんな事件を目撃した者は、誰一人いないのだから…。ただ、コンピュータ・シミュレーションや地上での実験によって、ある程度の予測は可能。

その結果、どのような角度や速度で衝突するかによるが、大まかにいうと、たった直径 1.3Km の岩の塊がもし地球に落下した場合には、その衝突エネルギーが全て熱エネルギーに変換され、現在全世界で保有している核兵器が同一地点で同時に爆発したほど、つまり全面核戦争なみの破壊力が生じることが判明している。その後の地球の状態は、地表(海に落ちた場合には海位)を構成する物質が粉々になって上空に舞い上がり、地上の森林をはじめ、ありとあらゆるものを焼き尽くした煙が成層圏を覆い、太陽の光りは遮られ、『核の冬』と呼ばれる極寒で暗黒の時代が数年間は続く。もちろん、植物の光合成は停止するため"食物連鎖"は根底から崩れ去る。ごく一部の

下等微生物以外は、たとえ核爆発の放射能汚染を免れたとしても、これら 2 次的な核の冬を迎えることによって絶滅することになる。

我々人間の時代は、たかだか 400 万年くらいの歴史しかないが、過去 1 億 8 千万年もの長きに渡って、地上を我が物顔で闊歩していた恐竜が、ごく短期間に絶滅した原因として、直径 10Km 程の、おそらく彗星が、中世代白亜紀と新世代第三紀へ移行する 6,500 万年前に、地球に衝突したためであろうことが、最近の研究で裏付けされてきた。その衝突地点も偶然の地質調査から、メキシコのユカタン半島先端、陸と海との境であることも判明してきた。実験によると、衝突クレーターの直径は、衝突物体の 20 倍程になることがわかっており、年代・クレーター

の大きさともに、この恐竜絶滅理論と一致するからである。

身近な例としては、1908 年 6 月 30 日に、シベリアのツングース地方で謎の大爆発があり、一時は「旧ソ連が密かに核開発をしていたのでは」ともささやかれたが、これは、大気圏に突入した小彗星が上空で爆発したものであることがわかってきた。

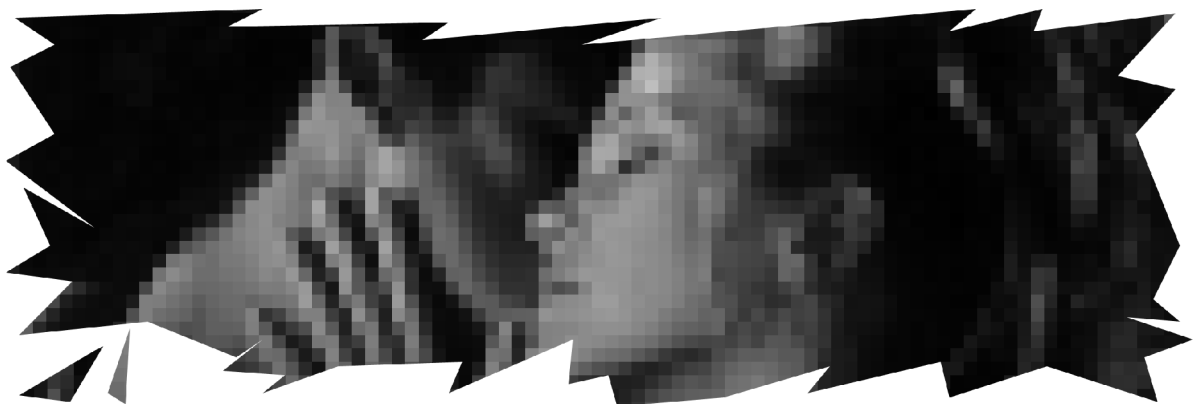
太陽系のはるか彼方には"オールトの雲"と呼ばれる何億何十億もの彗星の巣があるとされ、また小惑星も軌道が求められているものだけでも 5 千以上、軌道が不明なものは 2 万以上、未発見のものは想像もつかないほどであるとされている。これらがいつ軌道を逸脱して地球に向かって来ないとも限らない。今回の木星への衝突では、その瞬間、光度 -2.2 等級の木星が数倍明るくなる。木星の縞模様にも重大変化が生じる。木星での月食中の衛星が数倍明るく照らし出される等、いろいろ想像されているが、この木星の災難を対岸の火事とすることなく、将来のいつの日かやって来るかもしれない地球の災いを事前に予想するため、今、世界中の天文学者が鵜の目鷹の目で木星に熱い注目を浴びせているのである。

#### ■パリ島星空ツアーの御案内■

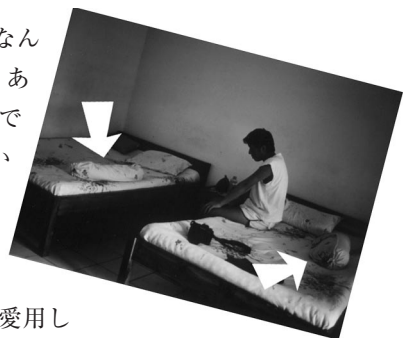
来る 8 月 12・13 日、ペルセウス座流星群の観望会を行います。今年は月明かりに邪魔されることもなく、絶好のコンディションで流星群を観望できるでしょう。日頃日本では見られない南の星座もあわせて御案内いたします。

日 時： 1994 年 8 月 12・13 日共、雨天決行！  
PM7:30 宿泊先ホテルにてピックアップ  
PM8:00~9:30 カデワタン村「ブルメリア」にて  
スペシャルディナー及び星空観望講演  
PM9:30~11:30 星空観望  
星空観望後、宿泊先ホテルまで順次巡回  
参加費用： 一人…3,000 円または US\$30  
(ディナー、交通費、テキスト、受講料込)  
最小開催人員：10 名(限定 20 名、先着順)  
予約方法：パリ天文教育センター(カデワタン村)  
もしくは影武者(ウブド)にて受付  
(予約時前払い)





ダッチ・ワイフと聞いて、卑猥な連想を抱いた男性はいませんか。なんて不謹慎なことを書く奴かと、お怒りになったあなた…。そうです、あなたこそ不謹慎であります。確かに日本では「大人のおもちゃ」の店でダッチ・ワイフというゴム製の人形がそう呼ばれていることは、こういうことにうとい私でも知ってはいます。しかしそのゴム製の人形のニックネームをゆみちゃんと呼ぶのだったか、エリちゃんと呼ぶのだったかは私に記憶はございません。本当のところはなんて呼ぶのでしたでしょう。また、この人形をかつて日本の南極越冬隊が常備し、隊員が愛用していたということを、まるでその目で見たことのようにその道の達人から聞いたことがあります。これも本当のところはどうなのでしょうね。



ところで、あなたはロスメンなどで（ホテルにはないかもしれませんが）、枕以外に細長い金太郎飴のような枕を見たことはありませんか。

そうそれがダッチ・ワイフと呼ばれるものの正体

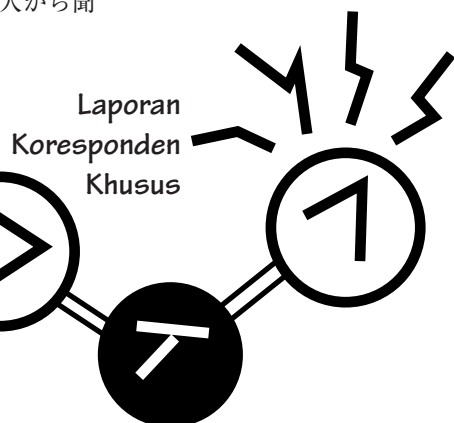
なのです。ダッチとは、米語でオランダを指します。とい

うことで、その昔オランダがインドネシアを植民地としていた頃、オランダ人が本国に残してきた妻や恋人を想い、寂しさを紛らすために使われた、一種の寝具の通称がダッチ・ワイフというわけです。

この抱き枕のことを、インドネシア語で GULING（読んで字の如く、グリングリンとあちこちに転がるという意味です）と言います。正式には、BATAL GULING。バリ語では、GALENG GULING と言うそうです。

卑猥な連想をしたあなたに、とっておきのインドネシア語を二つお教えいたします。GULING HIDUP（生きてる抱き枕）、GULING KENTUT（おならをする抱き枕）という俗語があるそうです。ダッチ・ワイフと添い寝をするか、妻や恋人と添い寝をするか、どっちのワイフがお望みですか。

ドッチ・ワイフがお望みですか。ダッチ・ワイフがお望みですか。なあ～んちゃって、チャンチャン。





16

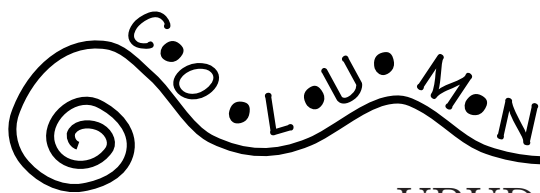




(Pura の祭礼) の時には色とりどりのベン  
ジョールや傘が飾られ、また、供物も色  
鮮やかで美しいものです。それが絶妙な  
コントラストをともなって威厳のある宗  
教的な宇宙空間をつくっていきます。

PURA には、お坊さんや神父さんが毎  
日いるわけではありません。祭礼の時に  
のみ出掛けてくるのです。PURA での祈  
りは、普段信仰心のない者でも、これ  
を眺めるときにはなぜか宗教心に目覚め  
てしまう力を持っています。UBUD を京  
都のような所、と説明する人がよくいま  
す。たしかに王族がいて貴族がたくさん  
いた所のようにです。そして PURA もた  
くさんあります。しかし京都のような所と  
言ってしまうと、ちと言い過ぎかもしれ  
ません。そんなたくさんある UBUD 近郊  
の PURA を今回は調べてみました。まず  
慣習村 (Desa adat) が維持・管理するカ  
ヤンガン・ティゴ (Kayangan tiga) と  
呼ばれる Pura Desa、Pura Dalam、Pura  
Puseh の三つの PURA があります。この  
ほかに慣習村が維持・管理する PURA に  
は、墓地にある Pura Merajapati、市場  
にある Pura Mekanting、そして水利組  
合 (スバツ) の Pura Subak (=Dedugu)  
などがあります。また UBUD にはカスト  
(Kasta)・親族が共同で祖先を祀る Pura  
Panti、Pura Dadia もたくさんあります。  
そしてそれぞれの家にも PURA があ  
ります。そして道のあちこちにもた  
くさんの祠があり、毎日供物が捧げ  
られています。儀式のたえない UBUD  
をあなたもこの地図を片手にプラ・  
プラと PURA 巡りをしてみませんか。

※ PURA についての詳細は、吉田竹也著「バ  
リ人の宗教について」を参照してください。



## UBUD の日本人

堀 祐一

バリ島にはたくさんの日本人がやってきます。これはもう、ピンからキリまでというほど様々な種類の日本人が、いつも生息していると言って過言ではないでしょう。日本人は毎日続々とやってくるのであります。ガルーダとJALとコンチネンタルという3社だけでもほとんど毎日満席に近い状態で乗り込んできます。しかもガルーダは名古屋便と福岡便もあるのです。他の国を経由して別のルートで入ってくる人もいますが、これは小数だと思われます。フライトひとつで約250人連れてくるとしても3社で1,250人。まあ、ジャカルタで降りる人や外国人を差っ引いて約1,000人というところでしょうか。これらのバリを訪れる日本人はほとんどが観光目的なので、たぶん平均1週間程滞在する人々です。するとバリには6,000人程の日本人観光客が常にいることになります。しかも留学生や仕事で長期滞在中の人やずるずるとバリにへばりついている人も含めるともっと一杯いるはずであります。(実際に調べたわけではないので、あくまでも私の憶測であるわけですが…)

う～む、これはなかなか凄い数といえます。これだけの日本人が一堂にUBUDに集合したら村はパニックになること請け合いです。ま、実際そんなことはないし、9割の観光客はヌサドゥアやクタやサヌールなどのビーチリゾートに生息するので、山村はいまのところ平和であります。

さて、それではこれら日本人をちょっと分類してみることにしましょう。ビーチリゾートの日本人はなんでもありの状況なので、やはりここはUBUDで見かける日本人に的をしぼってみることにします。UBUDに滞在する日本人は結構変な人が多いといえます。タイプはいろいろだが、ビーチにいる日本人観光客とはやはりどこか違うようです。ここで分類する人はあくまでもUBUDをベースに滞在中の人であり、ビーチからオプションツアーでちょこっとやってくる人や、暇つぶしに来たサーファー

達や、何かの間違いで紛れ込んでしまった人は除くことにします。

### ■タイプA

まず、ビギナーともいえる初心者マーク付きのUBUD初滞在観光客日本人のタイプです。このタイプの人はUBUDこそバリの真髄だあ、という雑誌や友人の情報でやってくる人が多いです。バリに2度目以上の人もいて、その場合クタやヌサドゥアを経験済みの場合もあります。そしてアジアっぽい雰囲気が好きで、ビーチリゾートのバリは神様も芸術も胡散臭いと疑っている人です。したがって音楽や踊りや絵画や祭事などに興味がある人であることが多いともいえます。

このタイプの人はちょっとしゃれたコテージタイプの宿に滞在します。プールなどがついている場合もあります。滞在期間はだいたい1週間から10日というところですね。エアコンがなくて最初不機嫌になりますが、1日寝るとそんなものの必要ない快適さに感動します。そして早朝に起きてパサールへ市場見学に行き、アジアンマーケットの雰囲気に浸ってむふふ笑いながら5,000Rpで1kgのマングスチンを買ってみたりします。

服装もTシャツに短パンとスニーカーで整えていますが、寺に入るときなどにサロンやスレンジングが必要になることを知り、これまたパサールで買い求めますがプリントの安パティックものを選ぶことが多いです。当然着こなしも身に付いておらず、サロンの巻方は風呂上がりのバスタオル風であります。またほとんどの人が最初は短パンを下に履いたままなので余計変です。

移動手段としては徒歩かレンタル自転車を利用する場合が多く、バッグやカメラを携帯しています。

食事はこぎれいなレストランでビンタンビールやフレッシュジュースを飲みながらナシゴレンやミーゴレンを食べます。

## ■タイプB

いわゆるリピーターと呼ばれるタイプです。何度も UBUD に来たことがあり慣れています。UBUD を自分の故郷だと思い込んでいる人もいます。ガムランなどにも結構詳しく、お気に入りの踊り子や楽団がいることもあります。

このタイプでもプール付きのコテージに滞在する人はいますが、滞在期間が2週間から2か月と長くなるのが特長なので、格安のロスメン（水マンディ）に居座ることが多くなります。生活はバリ人に溶け込むパターンを心掛けますが、夜遅くまでオダランや祭事に顔を出すこともあるので結構朝寝坊になります。

服装は長期滞在の割にレパトリーが少なく（タイプAの人より少なかったりする）、いつも同じようなTシャツにサンダルです。しかしサロンやクバヤなどのバリ式の衣装は凝ったものやしゃれた素材のものを豊富に持っていたりするし（おもにサロンはくすんだカットを好んだりもする）、着こなしも板について、TPOに合わせておしゃれを楽しむようになっています。

移動手段としてはレンタルバイクが圧倒的に多いですが、たまにレンタカーを長期で借りていて重宝がられる人もいます。運転できない人はベモを使いこなしたり、バリ人をアッシー君にしたりしています。余分なものを持ち歩かないので、いつも手ブラでフラフラしていることが多いのも特長です。

食事はワルンやブンクスのナシチャンプールが多いですが、たまにはレストランでビールも飲みます。一番の御馳走は当然ラワールやバビグリンだと思っているので、ロブスターやカニなどはいまだバリで食べたことがない場合が多いです。特長としては主に軽食として BAKSO を好むところがあります。

## ■タイプC

このタイプは1年のうちで日本にいるよりもバリに居る方が長い期間となってしまう人です。

半分 UBUD に住んでいるわけですが、ちゃんとビザをクリアしているかというと、そうでない人も多いので、2か月毎にシンガポールなどへ出たりしてパスポートが真っ黒になっています。留学して音楽や踊りを習っている人や、なにやら怪しい商売をしている人や、ひたすら結婚する相手を捜し求めているような（バリに住むために）人などがこのタイプです。

宿は超格安ロスメンを長期契約しているか、誰かの家に居候しているといったところで、ティダアパアパのバリ人生活が染み込んでいます。

服装もティダアパアパだし、移動もティダアパアパだし、食事もティダアパアパなのです。

インドネシア語が堪能なのでバリ人の友達も多いのですが、バリ語もほんの少しわかったりするので噂話には加えてもらえないこともあります。

このタイプの人は突発的な事態に遭遇した時、必ず「アド〜ッ!」という言葉が優先的に出るのが特長です。

## ■その他

上記のタイプに含まれない人々も当然います。アマンダリに宿泊し、高級レストランで \$200 くらいの食事をし、メインストリートには出てこないでライステラスを眺めて1日を過ごす人とか（実際に会ったことはないので想像であるが）、何をやって暮らしているのかわからないが、たまに見かけると BAKSO を Rp.300 に値切ってバリ人を泣かせている人とか、他にもピンキリで様々な日本人がいるのであります。

こういった日本人の行動や生態を、UBUD のバリ人たちはよ〜く観察しています。どこかでまぬけな行動をするのをバリ人は見逃していないし、独自の情報網を駆使しているので次の日には村中の人々がそのことを知っているということになります。バリの人にとっては我々日本人は退屈しない娯楽対象の舞台役者なのかもしれません。みなさんちゃんと演じて楽しませてあげてください。

## 日本で ENAK ENAK!!

今回わけがあって、エナちゃんは約3年ぶりに日本の土を踏みました。3年ぶりの日本の印象は、

【1】 みなさんきれいな服とクツを身に付けている。

【2】 みなさんとてもいい車にのっている。

【3】 犬がない！

【4】 店員の、お客に対する態度がすばらしい。

……というようなことを強く感じました。

日本滞在約3週間目でようやく感覚が戻ってきた?!と思っていたら、先日友人宅でガラスのコップにホットコーヒーをいれている自分にハッとして、なんとなくはずかしかったエナちゃんであります。

さてこの貴重な日本滞在の間、Vol.3のこのコーナーに、何を書こうと悩んでいましたが、いい事を思いつきました。題して「日本で作れるパリの味」。

最近、日本でもあちこちにインドネシア料理のお店ができていそう、とてもウレシイですね。数か月前、シンガパドゥ村のガムラングループが日本公演をした時、メンバーが東京の某インドネシア料理店で、ここぞとばかりうれしそうにごちそうを食べている写真を見たことがあります。

ここで紹介する料理は、できるだけ安価に、そしてご家庭でカンタンに作れるようにアレンジしてあるので、みなさんもぜひおためし下さい。日本では、インドネシア料理というと、ナシ・ゴレン、ミー・ゴレン、そしてサテなどがポピュラーですが、ここではUBUDの人々がよく作って食べている家庭料理っぽいものに挑戦してみましょう。

### ●エナちゃん風サンバル・ソース

そう！御存知サンバル、(チャベともいう)あの赤い、

ドロリとした激辛のソースです。市販のものとはひとあじ違いませ〜！

### <材料>

生のトウガラシ（なければ乾燥の物）10〜20本

たまねぎ 大1ケ

トマト 大1ケ

にんにく 1かたまり（10ツブほど）

トウバンジャン 大サジ2〜3

オイスターソース 大サジ2〜3

さとう 大サジ1

塩 おこのみで

サラダオイル 100cc

チキンブイヨン または中華味の素 少々

### 〔作り方〕

材料全部を、ミキサーかなにかでガーッと混ぜてどろどろにする。ミキサーがない時は、とうがらしとトマトはタネごとみじん切り、たまねぎとにんにくはすりおろす。そして、すべての材料を鍋に入れ、弱火で10分程煮る。そのあいだよくかき混ぜていること。油がプチプチとぶので気をつけること。塩加減はお好みで調節してください。さあ、できあがったこのソース、薄くスライスして小麦粉をはたき、こんがり焼いた厚アゲにからめれば、タフ・ゴレンの出来上がり！その他、ゆで卵やトリの唐揚げに添えて出せば、もうBALIのお総菜としてBAGUS! 何にでもあうので、おためしあれ！

### ●トリといんげんのカレー味煮込み

これもカンタン、そして案外さっぱりしているので夏向きのあかずによいのでは…。



<材料>

十六ささげ または いんげん 100g  
 トリ肉（手羽先、モモ肉、なんでも） 300g  
 生のトウガラシ（なければ乾燥のもの） 10 本  
 たまねぎ 大1ケ  
 にんにく 5 ツブ  
 トウバンジャン 大サジ2  
 ガラム・マサラ またはカレー粉 大サジ2  
 ベイリーフ（月桂樹の葉） 2～3 枚  
 サラダオイル 50cc  
 塩 おこのみで

〔作り方〕

大きめの鍋に、サラダオイルを熱し、すりおろしたたまねぎとにんにく、みじん切りのトウガラシ、その他調味料を入れ少し炒めます。いい香りがしてきたら、トリ肉を骨つきのままドバツと加え、少し炒めます。そのあとひたひたより少なめの水を加え、中火でグラグラ煮込みます。ほどよく煮詰まったら5cm くらいの長さに切った十六ささげがいんげんを加え、やわらかくなったら出来上がり。途中で、鍋の底を焦がさないよう混ぜ、塩加減も調節してください。エナちゃんは、ゆで卵のカラをむいたものをトリ肉と一緒に入れて煮込んでみましたが、これまたイケルごちそうでした。

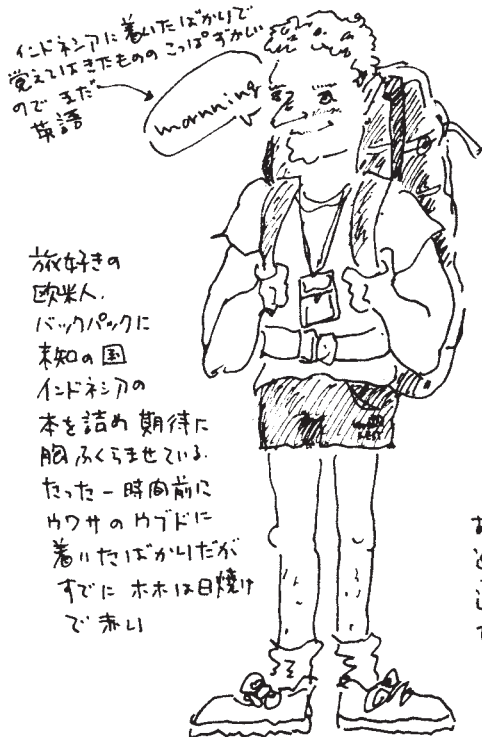
日本のお米の事、いろいろタイヘンだということは、バリにいる時から噂には聞いていましたが、こういうバリのお料理こそ、タイ米がぴったり。ホントにバリのようなパラパラごはんにしたい方は、鍋で炊いてみましょう。まず、たっぷりの水でガーッ

と炊き、途中でザルにあげてしまって、湯を捨ててしまいます。そしてすぐにザルで強火で蒸すのです。こうするとねばり気のないあのバリのごはんになります。そしてもっとひたひたの方は、ごはんもおかずもじゅうぶん冷めきった頃、お皿にナシ・チャンプル風にドカドカと入れ、手で食べてみて下さい。その時、バリのお線香とグダングラムの香りを楽しみながら、バリカレンダーでもめくって、「えっ〜とォ、次のガルンガンは…っ」とブツブツ言いながら食べていただくと、よりいっそう「らしく」なるのでは…？ あ、書いている本人がムズムズしてきちゃいました。う〜ん、食べたい!!

これは余談ですが、やはり3年ぶりの日本で食べる海の幸、山の幸、いやぁこれは感動でした。なんといっても魚がおいしい！ブリ、アジ、サバ、イワシ、あのアブラののった魚はBALIでは味わえなかったものでした。そして、友人が食べさせてくれた、とれたてのタケノコ、タラの芽……、忘れられません。こりゃあ、とてもダイエットどころじゃないわあ。1週間で1Kg増だ〜、というわけで、今回は日本で原稿を書きましたが、次回からは再びUBUDからお届けします。楽しみにしていて下さい。ひさしぶりに来た温泉のように広いお風呂屋さんですべて、大声で「Adu〜h!!」と叫んで、その声がよ〜くひびいて、たいへんハジをかいだエナちゃんでした〜！

ENAK ENAK ENAK  
 ENAK ENAK ENAK

## ☆ウゴドは旅人を変える!? 欧米人の場合



旅好きの  
欧米人。  
バックパックに  
未知の国  
インドネシアの  
本を詰め 期待に  
胸ふくらませている。  
たった一時間前に  
ウツサのウゴドに  
着いたばかりだが  
すでにホホは日焼け  
で赤い



ウゴドの人達は  
あなたかく彼を  
迎え入れ、彼の期待  
通りに 魔不可思議な  
世界へと誘うので  
あった



Kinayami

あなたが言った場合。それがラスト・ブライズになります。言ったあなたは、買うのが常識といったところです。くれぐれも喧嘩をしないように、買い物を楽しんでください。

またよく問題が起こるものにベモ（公共乗り合いバス）があります。現地の人々と値段が違うという理由から、ツーリストが大変な剣幕で怒っていることがあります。これもまず乗り込む前に現地の人から値段を聞いて調べておくべきです。そして、降りる時には、正当な料金を払っているといった自信をもって降りてください。それができない人は、めめない方が得策だと思います。また大きな荷物（一人分として取られることがあります）が、それはしかたないことだと思います。どうしても現地の人と同じ値段にするのだと、頑固にというか意地を張って見たところ、いやな思いをしたり、殴られてはそれこそ大損といったものです。顔がはれあがって病院にいったツーリストもいます。たかが100RDというわけではありませんが、我々ツーリストは決して貧乏旅行者ではないのです。そして現地の人々もそう思っています。ただ節約旅行をしているだけです。もっと上手な節約があるはずですので、そこで頑張ってみてください。



## ☆ウブドは旅人を変える!! 女性(この場合白人イボニアと仮定)の場合



## 価格の四重構造

UBUDに滞在して、楽しみの一つに買い物があると思います。そんな時、あなたはどのくらい値段が高く吹っ掛けられているなと感じて、ぼやいたことはありませんか。そうです、それは確かに吹っ掛けられているのです。しかし、だからといって腹を立ててはいけません。バリでは、昔からの習慣で地元の人と他の村のバリ人とでも価格は違います。UBUDでも買物物の時、UBUDの人より他の村の人が高く物を買わされるということはよくあります。これは今でもそのようです。

地元バリ人価格、他の地方のバリ人価格、ツーリスト価格、おまけに日本人ツーリスト価格と四重構造になっていて、なかなか地元の人のようには買物物ができません。

また、買物物の時、お店の人に泊まっているホテルの名前を尋ねられることがよくあります。それは、そのお客さんのレベルを調べているのです。高いホテルに泊まっている人は、それなりに払うべきだと彼らは考えているようです。これはバリ人のお金持ちも同じように、お金持ちはお金持ちとして扱われます。

また、「いくらなら買いますか?」と価格をまかされた時、「いくらなら買います。」とあ

## タジェン（闘鶏）の魅力

Tidak Bagus Isii

バリには興味をひかれるものがたくさんある。そのひとつが、知る人ぞ知る闘鶏である。闘鶏はバリ語でタジェン (tajen) というが、お寺の祭礼や何かおおきなウパチャラ（儀礼）がるときに、このタジェンが開かれる。雄鶏の脚にタジ (taji) というナイフ（けづめ）をつけ、向かい合わせて手を放すと、鶏は首のあたりの毛を逆立てて飛び上がり、相手にかかっていく。そのときの鶏は花が咲いたようになる。その美しさと、あたりに飛び散った鶏の羽根や血で汚れた地面のグロテスクな色とが、妙に調和している。

おもしろいのは、この鶏の戦う姿だけではない。むしろわたしが興味をひかれるのは、そこに集まってくる男たちである。闘鶏はバリの男たちにとって、もっともポピュラーな娯楽のひとつである。闘鶏は四角いリングの中でおこなわれる殺戮のゲームだが、これがボクシングよりも興奮するのは、まわりで見ている観衆がどちらの鶏が勝つかを賭けているからである。試合の直前に大声をあげて賭けの金額を交渉しあい、鶏が戦いはじめるとその喧騒が一挙に消えて、静まりかえった中で男たちは食い入るように勝負を見つめる。そして勝負が決まるとまた騒々しさが復活し、お金の精算をし、しばらくのちに別の鶏の勝負がはじまる。生き生きとした、というよりもぎらぎらした眼と、勝負がおわって緊張と興奮が弛緩したときの表情は、なかなかほかの機会には見られない、バリの男たちの雄姿である。

ところで、アメリカの文化人類学者がこの闘鶏を分析して、闘鶏はたんに金銭を賭けるだけのものではなく男にとってもっとも重要な名誉や地位、威信を賭けるものなのだという

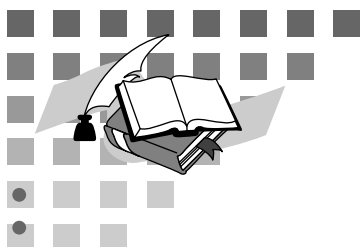
ている。戦う鶏は彼の分身であり、闘鶏に参加する者は自分の親戚や同じ村の人が出している方の鶏に賭け、逆に敵対関係にある者とは逆の方に多額の金を賭ける。そうして自分や自分の人間関係を誇示したり、相手の地位を攻撃したりするのだという。たしかにそういう面はある。しかしわたしが見るかぎり、それはあくまで闘鶏がもつ一面にすぎない。闘鶏はある者にとっては地位と名誉を発現させる舞台だが、ある者にとっては、一獲千金を狙う賭博の場であり、ある者にとっては日本人にとってのスポーツ観戦やパチンコなどおなじく、リクリエーションの場である。あるいはそれらのすべてである。日々おこなわれている闘鶏は、それらを総体として孕んだものだと思う。

ウブドでは、毎日のように夕方から男たちが集まって、少ない掛け金で和気あいあいと、日暮れまでのしばらくのあいだ、闘鶏を楽しむ。それは地位や名誉とはほとんど関係ない、純粋な娯楽である。ここには大きな闘鶏の勝負の興奮や、スリリングな緊張感のようなものはないが、それだけに、闘鶏が彼らにとって何なのかを示しているようにおもうのである。



photo: E. Sugawara





## ガムラン武者修行

音の宝島バリ暮らし

一気に読んだ、イッキ。休日の昼過ぎ、ナニゲに手に取ったこの本ですが、グイグイと引き込まれてその日の深夜には読み切ってしまいました。「いやあ〜、おもしろかった!」皆さんもどうぞ…、ちゃ話しにならないので独断と偏見で感想文を書いちゃいます。

まずなにしろ、この本の著者の皆川さんのイメージがガラリと変わってしまいました。全くの個人的意見で恐縮ですが、私、皆川さんという人は、"民族音楽をガクジュツ的に研究している東京芸大出のカタブツ"…と解釈してました。なんとなく、「同じバリ好きと言っても、アタシとは違うのよお〜んっ」と感じていたわけです。ところがところが、まさかまさか、こんなに日本人離れしたバリ人みたいなヒトだったとは、驚き桃の木サンショのキです。この本に登場するのは、バリで見かけたガムラン隊のカッコイイ男達に魅せられて、「俺もこの男達のようになるのだあああ!」とちょっと単純とも言える動機でバリにガムラン留学しちゃった青年です。この本には青年ミナガワの留学当時の奮闘記がイキイキと綴られています。読んでる方としても、何だか手に汗にぎる脳みそぐつぐつレッスンを一緒に体験させられてるようで、額に脂汗状態です。こむずかしい民族学の本を読むより、よっぽどバリの人たちの考え方や価値観が分かると思います。そしてさすがだと思ったのは文中に出てくる音の描写です。「ジョーン! シャラララーン、デーン、ジョーン!」とか「カパカパ、デウッデ、デウ…。」「カパカパ、カパ、デウカパ!」なんてあたり。本の中にも出てきますが、ガムランを修得するというのは、頭で理解して学ぶものではなく、カラダに反応を覚え込ませるというまさに修行そのものなんですね。で、その音の描写あたりが「おっ、さすが修行をつんだ人はチョット違うぞ。」と思わせてしまうのであります。バリでは演奏や踊りを始める前に、必ず神への祈りをおこないます。それは、上手に踊れたり演奏出来たりするには、神様のパワーが必要だからだと聞きました。確かに素晴らしい演奏をする時のガムラン隊のメ

ンバーは、ものすごいパワーを発散しているのに、眼は空を見つめてチョット神懸かり的な表情をしています。あ、神様を味方につけているなって感じですよ。青年ミナガワは修行によって神様を味方にする術を身に付けたようです。この本には淡々と留学中の日常が描かれているのに、そんなバリの不思議なナニカもたくさん詰まっています。

おまけに、本の下の方の所が「はみ出し豆知識」みたいになってて、楽器の説明とか曲の説明なんかがついているんですが、最後の方にインドネシア会話の項目もあり、そこに出てくるのがこんな会話なんです。「ストーリーは何ですか? あの人は何の役ですか?」「次のオダランはいつですか?」「そのガムランはどここの村のグループですか?」ふふふ、つまり、普通の会話集には出てないけど、カユイ所に手が届く会話集が、ボロボロ載ってるのです。ね、皆さんもこの辺見ると次のオダランが待ち遠しいでしょ?

ちなみに、私はこの本を読んでムズムズ虫がおさまらず、飛行機のチケットをとってしまったのであります。(by えりりん)



- 著者…皆川厚一
- 発行…(株) パルコ出版
- 価格…2,300 円

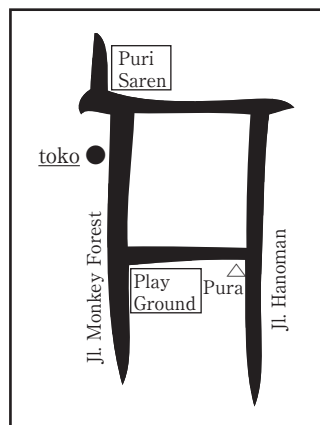


## Toko ◇ BEST 店

## toko

Puri Saren の交差点から JL.Monkey Forest を 150m 程入った右手に 3 階建ての瀟洒な建物が目に入りますが、それが『toko』です。TOKO とはインドネシア語で商店という意味です。ということとは商店という名前の商店というわけですね。今、UBUD で話題の焦点 = 商店というわけです。まことにお洒落な店名ではありませんか。エントランスには小さいなりにもバリっばい庭園が造られていて、UBUD でトップクラスのお洒落な店です。店内に入るとインテリアもやはりお洒落。イカット・洋服・帽子から金銀のアクセサリ・陶器・スタンドグラスの小物まで揃っています。この品物には、手の込んだ刺繍を施してあったり、生地やボタンに凝っていたり、スパンコールがびっしりだったり、おしげもなく人の手をかけた贅沢さがあります。ちょっと値段は高めですが、都会に戻ってもじゅうぶん通用する品のいいエスニック感は、きつとあなたのサイフの紐をゆるませしてしまうことでしょう。

Monkey Forest Street Ubud, Bali, INDONESIA / PHONE : (0361)95046

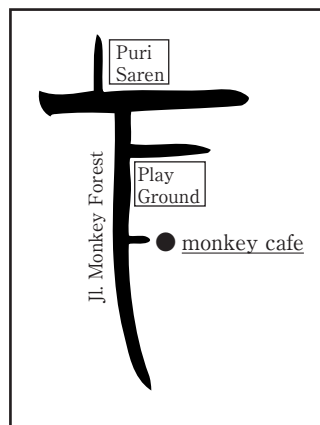


## Warung ◇ 味な店

## monkey cafe

Puri Saren から JL.Monkey Forest をモンキー・フォレストに向かって進み、サッカー場を通り抜けた辺りに、ガイドブックでお馴染みのカフェ・ワヤンがあります。そのカフェ・ワヤンを少し越えた左側に、今回紹介する『モンキー・カフェ』はあります。ショッピングモールと云えば恰好良いのですが長屋造りのショッピング街の一番奥の右側にモンキー・カフェはあります。UBUD のオーディ・マーフィと言われる風貌で皆に親しまれているワヤン、ジュンポーの店です。ジュンポーは絵書きであり、デザイナーでもある多芸な男です。今回は料理人として才能を発揮しております。また本人がベジタリアンということで、UBUD ではめずらしい (2 件) ベジタリアン専門店を開いたというわけです。料理はベジタリアン・ナシ・チャンプルー (3,500Rp) をはじめ 10 品のメイン・ディッシュ。他にスープ、デザート、スナックがお値打ち価格で充分満足できそうです。前述のナシ・チャンプルーは、野菜のカレー炒め、コーンフリッターなど、他では味わえないモンキー・カフェならではの惣菜が楽しめるおすすめメニューです。店の二階からはジャラン・モンキー・フォレストにはめずらしく、ココナツの木々の森が望めます。ジュンポーのデザインしたココナツの木で造られたテーブルもなかなかお洒落です。UBUD でくつろぎのひとときが約束できる空間です。

Monkey Forest st 80571 Ubud, Bali, INDONESIA / PHONE : (0361)96246



# 私の常宿

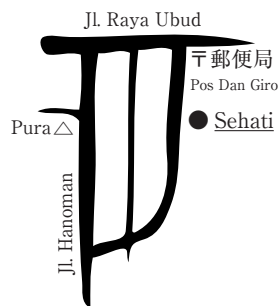
Pondok Manis

## SEHATI GUEST HOUSE

白猫めぐびー

朝、目がさめるとオープンダイニングへと直行する。木々にかこまれたテーブルでガラムを一服。「おはようございます。」とスタッフが朝食を運んでくれる。私はこのオープンダイニングが大好きだ。思いかえせば朝といわず、昼も散歩の帰りもかならずといていいほど、そこにいたのである。"SEHATI" ゲストハウス。Jl.Raya Ubud から Jl. Jempawan にはいった郵便局の先にある。部屋は6室。ホットシャワー、朝食付き。そしてなんとといっても日本語の話せるスタッフがいるので、語学がまったくダメ！という人でお安心できる。バリは初めてという女性の泊まり客も多いようだ。まずはここでインドネシア語を学びながら現地の人とコミュニケーションをとるといのはいかがでしょうか？さて、バリではドミノをしているおにいちゃんたちをよく見かけるが、私たちは毎日セブンブリッジというカードゲームをしていた。SEHATI のスタッフに教えたら、ポンッ！ということばが気に入ったらしく暇があると「ポンやろう！」とよってくる。置き土産にカードを一式プレゼント。今ごろ Ubud では"ポン"という名のゲームが流行っているのだろうか。

Sehati G. H.  
JLN Jembawan 7A, 80571, Ubud, Bali, INDONESIA  
PHONE : (0361)95460



## Pesan & Kesan

## 旅人一声

大原正博

### ● HATI HATI ●

私がこの言葉を初めて見たのは、ジョグジャカルタからバリに向かうバスの中からでした。途中道路に置いてある看板でだった。まだインドネシア語を知らなかった私はこの品物はここで売ってますよという看板だと思っていた。後で調べて見ると"注意して下さい"という言葉だとわかって一人苦笑してしまった。この言葉は旅立つ時に、送り出す人が「HATI HATI」(注意してね)と言う時につかわれる言葉だ。私は最近、旅をする若者達にこの HATI HATI の気持が不足しているのではないかと思う。スリに遭ったとか、置き引きに遭ったとか言うなら未だしも…、白タクに乗って、金を出せと居直り強盗に会ったり EXCENG で金を取り替えた直後に強盗に会ったり、闇の両替屋で金を騙されたり…、見も知らない女をホテルの室に入れて金を盗まれたり。お金だけでなく、今、パンコックを訪れる若者達が夜の歓楽街で毎夜繰り広げられる刺激的な官能の世界に溺れているのを見てい

て、日本の無菌質な世界で育った人間の弱さを見るにつけ、「あ～、日本は平和だあ～」と思うのです。

この UBUD に初めてきた時、KUTA の喧騒から離れて、なんてすごしやすい所なんだろうと 26 日間居てしまい、また、1 年たつて UBUD に来て 4 ヶ月近くも居ることになってしまったし、この平穏な UBUD も、近頃、少しずつ変化しつつある。

日本人が多くなってきたせいかな？どうかは分からないけれど、殺人はまだきかないけれども、スリや窃盗などが少しずつ増えてきた様だ。日本人と見るとお金やいい品物を持っていて、あまり注意をしない日本人は、いいカモに見られている事は確かだ。一寸した注意でこの旅が楽しくなるか、つまらない旅になるかは、自分しだい。人に注意する前に自分で注意するようにすれば、ここのバリの神々は貴達に幸せを与えてくれるでしょう。

Selamat Jalan HATI HATI.



## その他のニュース

■フリー・アルバイターのOさん(47)から、こんなお便りをいただきました。

切り立った崖の上から望むタナ・ロットの夕陽は感動的である。Pura Tanah Lot のシルエット、そして茜色に染まった雲は自然の創る芸術である。その崖の上にある店々を通り抜けたあたりに、不自然なゴブの山が目に入った。何だろうかと近づいて見ると、それはゴルフコースの建設中で土が掘り起こされていたのであった。うーん、今までの自然はどこへ行ってしまったんだろう。美しいライステラスはどうしてしまったんだろう。しかしまあ、ゴルフコースも人工的にせよ、きっと美しい景色になると思います。そしてゴルフファンにとっては、素晴らしい景観のあるコースでのプレイは、きっとナイスショットの連続のことでしょう。しかし待てよ、タナロットと言えバリの人々にとっては聖域として大変重要なところではなかったろうか。それをゴルフコースの点景にしてしまっているものなのだろうか。それはしかたのないことなのだろうか。まさか日本企業が絡んでいるということはないでしょうね。それでなくとも金満大国日本とバリでは悪評の高い日本。ますます旅がしにくくなってしまいます。オーナーはスマトラの人と聞いて一安心しました。しかし、ウダヤナ大学の学生達が反対運動をしていると聞きました。地域の人々の声は聞いているのでしょうかね。ゴルフ場建設は是か非か、あなたも考えてみてください。

■1994年4月24日、東京都在住の怪しげな仕事をしているN氏(35)は、日頃科学的に根拠のない事を信じようとしない性格である。そこで友人I氏(47)は、これぞトランス、トランス中のトランス、非のうちどころがないトランス、トランスの最高峰と言っても過言ではないトランスを必ず見ることができる、デンパサールの某Puraの

オダランにN氏を連れて出掛けました。アドレナリンの作用、集団催眠、集団ヒステリー、薬物の服用などの諸々の条件に、Puraのロケーション、花の薫り、お香の香り、アルファ波を刺激する音楽などが重なり合いトランスをするのではないかと考えるのが普通である。「それならば私も信じられる」とN氏は言っています。しかし、ここのトランスはそんな簡単に理解できるなまやさしいものではありません。なんの前触れもなく一瞬に、そして同時に20人～30人の人々が数秒の狂いもなく、弾けるようにトランスするのです。それを目の当たりにしたN氏は、啞然とした顔で「なんだ、これは？」と驚嘆の一声をあげただけでした。



■4月末日：Pengosekanにある居酒屋「影武者」に於いて、仮称『UBUDの環境を考える会』が非公式のうちに発足いたしました。手始めに会員の志気を高めるとい趣旨でSAVE THE NATUREのTシャツをつくり、ミネラル・ウォーターのプラスチックボトルの「投げ捨てないで運動」を始めました。また、プラスチック専用のごみ箱を作り街角に配置するという、草の根運動を始める計画を立てました。プラスチックは回収

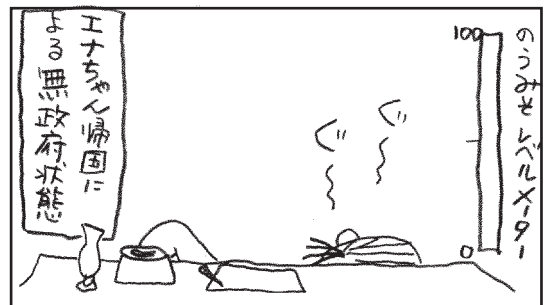
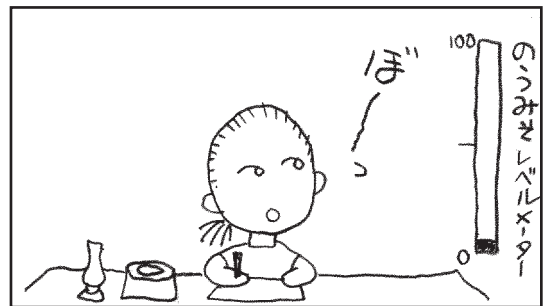


業者によって回収され、リサイクルされます。屑鉄も同様です。UBUD の自然を守るために、私達ツーリストは、＜1＞ゴミをつくらない。＜2＞ゴミは分別して出す。という、小さくて大切な事から始めたいと思います。実行委員会より、読者の皆様へお願いします。「私は UBUD の環境についてこう考えている」というご意見を募集しております。ご意見は「極楽通信 UBUD」にて掲載されます。また、ごみ箱のデザインも公募しておりますので、謝礼は一切ありませんが、ふるってご応募ください。



■ 4月15日未明、UBUD の母と慕われる Yumi-san が、日本へ3年ぶりの一時帰国をしました。帰国の理由は、お父さんの急病ということです。お父さんの病状は帰国した Yumi-san の元気な姿を見て安心したのか、驚く程の回復力だそうです。このまま順調に回復すれば、5月末日には UBUD で療養するために、Yumi-san とともに BALI 入りするそうです。UBUD の自然の中で充分に療養していったほしいものです。Yumi-san からのコメントで心配かけた皆様に、心からお詫びとお礼を申し上げておりました。また、「極楽通信 UBUD」Vol.3 の内容が大幅変更をよぎなくすることを深くお詫びしておりました。この穴埋めは Vol.4 からより一層の内容充実に向けて励むそうですので、期待することにいたしましょう。

うんちな人々 その3 ほりり



#### 【年間購読申込み方法】

エメールで、その旨手紙をください。宛先は「影の出版会：伊藤」、住所は巻末の BALI 本部です。料金は、3,000 円。おれかえし申込み用紙と送金方法をお知らせします。また、お急ぎの方は、郵便振替用紙の通信欄に年間購読希望と書いて送金してください。振替先口座：00190-6-573859「影の出版会」です。

| Name                | Point                                                | Address / Tel                         |             |
|---------------------|------------------------------------------------------|---------------------------------------|-------------|
| Semara Ratih        | あのスマラ・ラティのリーダー、アノムそしてアユがコーチしてくれる。宿泊施設有。              | Jl. Kajeng 25, Ubud<br>Tel. 96277     | ダンス、ミュージック  |
| Puri Agung          | プリアタンの王宮でも習えるのだ！<br>宿泊設備有。                           | Peliatan                              | ダンス、ミュージック  |
| Mandara             | 御存知、ティルタ・サリのご本家。宿泊設備有。                               | Peliatan                              | ダンス、ミュージック  |
| Gunung Merta        | 日本語のできるババ・イダ・バグース氏が相談にものってくれる。宿泊設備有。                 | Andon<br>Tel. 975463                  | ダンス、ミュージック  |
| Nata Raja           | STSI（芸術大学）出身のワヤン氏は、マルチ・ティーチャー。                       | Jl. Sugriwa, No.20,<br>Ubud           | ダンス、ミュージック  |
| Wayan Karta         | カルタ氏本人はガイドだが、家族はダンサー・ミュージシャンが粒ぞろい！                   | Jl. Suweta, No.16,<br>Ubud Tel.975730 | ダンス、ミュージック  |
| Sanggar Centil Cili | STSI 出身のメンバーを中心に、スタッフもやる気満々。気軽に習えます。                 | Pengosekan, Ubud                      | ダンス、ワヤン・クリッ |
| Dewa Berata         | あのスマラ・ラティのクンダン（名物男！）奏者。STSI 出身。お父さんから、4 人の兄弟みんな音楽一家。 | Pengosekan, Ubud                      | ミュージック      |
| Gusti Sana          | SANA 氏独特の、カエル百態、ちょっとエッチなタッチ。とてもやさしい先生。               | Pengosekan, Ubud                      | ペインティング     |
| Budiana             | D. ボウイーも持っている、プディアナ先生の摩訶不思議な、エロティックなスゴイ絵、あなたも描けます。   | Jl. Hanoman                           | ペインティング     |

*ズンゴンボン*

Pengumuman

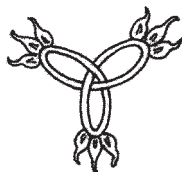
★バリ式の結婚式をしませんか？！

Vol.1 のギャラリー探索で紹介した、I Gusti Putu Sana さんの家でバリ式結婚式ができることになりました。予算は未定ですが、きっと良心的な値段になると思います。メニューは貴族の結婚衣装で着飾り、たくさんの村人が見守る中で、略式の儀礼が行われます。そして、バリの伝統的な料理に舌鼓を打ちながら、村人の奏でるガムランと舞踏を鑑賞することができる予定になっております。

連絡先はボンゴセカン、コンピアンまで

★会員募集中！

4 月 7 日から、東京、中野サンブラザ 6F でバリ舞踏教室を始めようと思っています。とりあえず、ガボール（UBUD のです）からスタートする予定です。習ってみたいという方連絡ください。  
03-5398-0586 吉田由美まで



★あなたも教育里親になりませんか？

インドネシアとスリランカの子供たちの教育援護をしてくれる里親会員を募集しています。会費と援護金は里子一人あたり、一年分で 36,000 円。特定の教育里子に、一人の里親が責任をもって最低 3 年援護します。残念ながら Bali はインドネシアの中でも豊かなので里子の条件にはあてはまらず、主にジャワの子供が多いようです。私は一年づつ三人の子供を受け持ちました。今、世界的にみれば円程強力なお金はありません。月々 3,000 円で、優秀だけど学校へ行けない子供が勉強を続けられるのです。夢のあるお金の使い方だと思いませんか？（菅原）

詳細は、C.P.I. 教育文化交流推進委員会  
Phone: 0422-49-3808



Terima Kasih



発行人：伊藤博史

編集：伊藤博史 / Yumi S. / Mansha / 堀 祐一

エディトリアルデザイン：菅原恵利子

写真：小原孝博 / 堀 祐一 / 菅原恵利子

カバーイラスト：伊藤ちづる

ロゴデザイン：Hiroko S.

インドネシア語監修：Rianto S.

極楽通信「UBUD」Vol. 3

1994 年 6 月 25 日発行

発行・販売：影の出版会

Hiroshi Ito: d/a Pak Wayan Karta Wigraha  
Jl. Suweta No.16, Ubud. Bali,  
80571, Indonesia tel.(0361)96134

©1994 影の出版会 禁無断掲載





影の出版会事務局

- BALI 本部 Hiroshi Ito: d/a Pak Wayan Karta Wigraha Jl.Suweta No.16,  
Ubud. Bali, 80571, Indonesia tel.(0361)96134
- 日本連絡先 〒 106 東京都港区麻布台 3-4-4 Iikura Comfy Homes B-102  
ポトマック株式会社内 , tel.03(3583)0801 fax.03(3583)0803